

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第3区分

【発行日】平成24年4月12日(2012.4.12)

【公開番号】特開2011-86212(P2011-86212A)

【公開日】平成23年4月28日(2011.4.28)

【年通号数】公開・登録公報2011-017

【出願番号】特願2009-239971(P2009-239971)

【国際特許分類】

G 06 F 12/00 (2006.01)

G 06 F 3/06 (2006.01)

【F I】

G 06 F 12/00 501B

G 06 F 3/06 304F

G 06 F 12/00 501M

【手続補正書】

【提出日】平成24年2月15日(2012.2.15)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

処理速度や記憶容量の異なる複数の記憶媒体を有し、

ユーザが使用するデータを、前記記憶媒体間でより高速な記憶媒体に自動的に転送し、データアクセスの高速化を行う記憶装置であって、

前記記憶媒体の記憶データに関する情報を記憶するデータ情報記憶部と、

前記記憶媒体の空き容量を記憶する記憶媒体情報記憶部と、

前記データ情報記憶部および前記記憶媒体情報記憶部に記憶している情報に基づいて、前記記憶媒体間でデータ転送を行うデータ制御部と、

を備え、

前記データ情報記憶部は、データごとのアクセス要否フラグを記憶すること、を特徴とする記憶装置。

【請求項2】

請求項1に記載した記憶装置であって、

前記データ情報記憶部に記憶している情報の一部、あるいは全てをユーザに提供する機能と、

前記データ情報記憶部に記憶しているアクセス要否フラグを切換える機能と、を有すること、

を特徴とする記憶装置。

【請求項3】

請求項1または2いずれか一項に記載した記憶装置であって、

前記記憶媒体間でのデータ転送において、

転送先の記憶媒体の空き容量が足りない場合、あるいは、空き容量が一定の値に達した場合の少なくとも一方の条件を満たした場合、ユーザに対して警告を促す機能を有すること、

を特徴とする記憶装置。

【請求項4】

請求項 1 から 3 いずれか一項に記載した記憶装置であって、
前記記憶媒体間でのデータ転送において、
データの一部をコピーして転送すること、あるいは、データの一部をコピーして転送元
に残しておくこと、
を特徴とする記憶装置。

【請求項 5】

請求項 2 に記載した記憶装置であって、
前記データ情報記憶部に記憶しているアクセス要否フラグを切換えることで、
関連データのアクセス要否フラグも同時に切換える機能を有すること、
を特徴とする記憶装置。

【請求項 6】

処理速度や記憶容量の異なる複数の記憶媒体において、
ユーザが使用するデータを、より高速な記憶媒体に自動的に転送し、
データアクセスの高速化を行う記憶制御方法であって、
前記記憶媒体の記憶データに関する情報を記憶する第 1 のステップと、
前記記憶媒体の空き容量を記憶する第 2 のステップと、
前記第 1 のステップおよび前記第 2 のステップで記憶した情報に基づいて、前記記憶媒
体間でデータ転送を行う第 3 のステップと、
を備え、
前記第 1 のステップは、データごとのアクセス要否フラグを記憶すること、
を特徴とする記憶制御方法。

【請求項 7】

請求項 6 に記載した記憶制御方法であって、
前記第 1 のステップで記憶する情報の一部、あるいは全てをユーザに提供し、
前記第 1 のステップで記憶するアクセス要否フラグを切換えさせること、
を特徴とする記憶制御方法。

【請求項 8】

請求項 6 または 7 いずれか一項に記載した記憶制御方法であって、
前記記憶媒体間でのデータ転送において、
転送先の記憶媒体の空き容量が足りない場合、あるいは、空き容量が一定の値に達した
場合の少なくとも一方の条件を満たした場合、ユーザに対して警告を促すこと、
を特徴とする記憶制御方法。

【請求項 9】

請求項 6 から 8 いずれか一項に記載した記憶制御方法であって、
前記記憶媒体間でのデータ転送において、
データの一部をコピーして転送すること、あるいは、データの一部をコピーして転送元
に残しておくこと、
を特徴とする記憶制御方法。

【請求項 10】

請求項 7 に記載した記憶制御方法であって、
前記第 1 のステップで記憶するアクセス要否フラグを切換えることで、
関連データのアクセス要否フラグも同時に切換えること、
を特徴とする記憶制御方法。